

## 第2回岐阜県生徒指導推進会議 議事要旨

### 1 開催日時・場所

日 時：令和8年2月25日（水）午後2時00分から午後4時10分

場 所：岐阜県庁舎20階 会議室2001

### 2 組織の概要

平成18年に県内で発生した悲しい出来事を二度と起こさないため、子どもと大人の豊かなかわりや子ども同士の思いやりのある温かい人間関係によりいじめの未然防止に努める。

### 3 構成

青少年育成指導者養成関係者 大学関係者 県教育推進会議等代表者  
非行予防・更生関係団体関係者 青少年育成団体関係者 社会教育団体関係者  
福祉関係者 保護者代表者 小・中・義・高・特別支援学校代表者  
社会教育行政関係担当者 人権行政関係担当者・学校教育行政関係担当者 25名

### 4 令和7年度「あったかい言葉かけ運動」の作品紹介、各地区における取組状況と次年度の活動、全国いじめ問題子供サミット参加報告、岐阜県におけるいじめの状況と取り組みについて

○令和7年度「あったかい言葉かけ運動」について

- ・令和7年度「あったかい言葉かけ運動」のリーフレットの紹介と作品動画の視聴
- ・各地区における「生徒指導連携強化委員会」兼「家庭教育推進会議」の報告

○「全国いじめ問題子供サミット」について

- ・羽島郡二町教育委員会から、笠松中学校の取組と当日の発表を報告

○岐阜県におけるいじめの状況と取組について

- ・当課より、令和6年度問題行動調査の結果から、県内のいじめの状況や令和7年度の未然防止等の取組等を説明。

### 5 意見交換（今年度の推進等について）

- ・被害者ファースト。年々、丁寧にすることができるようになっている。昼休み、朝の会など、学校という風土をあったかくしていこう流れができています。子どもたちは周りの状況を見て、「おかしいのではないかとSOS出してくる自浄作用がみられる。
- ・あったかい言葉運動をぜひ、SNSで啓発を。ネットに臆せずに取り組んでほしい。ネット環境もあったかい言葉で満たす。情報提供の受け皿を広く持ってほしい。学校で十分にやっていたが、地域や異学年の目を育ててほしい。傍観者を第二の加害者として指導することが大切。傍観者を何とかする、これがポイント。
- ・統合する学校、過疎化する地域。子どもたちは地域の宝。子どもたちが愛されている経験・記憶があればいじめの未然防止になるはず。人間の心のなかには、他者に向かうことはある。しかし自分を愛せることができれば、踏みとどまることができるはず。子どもたちは自分に対する自信がないということをよく聴く。子どもたちのしたいことを大人が支えることを大切にしたい。子どもの成長に合わせて、大人も成長することが大切。見守ることで、あったかい言葉が自然と出る。
- ・アニメーションのなかで西濃高等特別支援学校があった。手を強く握り返すという経験を担任の先生が子どもに教えてくれた。この経験は宝となるはず。違いを認めて尊重する、新しいものを作り出したときに尊重することが大切。人権が最も大切で思いやることで、傍観者にならないことが大切。